

事業活動実績報告書

施 設 名	明昭第二幼稚園
教 育 理 念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。

1 事業名	絵本の読み語り・絵本育を大切にする保育
2 実施期間	令和 7年 4月11日 ～ 令和 8年 3月17日

3 取組概要	（取組日） 令和7年 4月11日 ～ 令和8年 3月17日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 3～5歳児 月刊誌・絵本、紙芝居の読み語り 月刊誌こどものとも年少版、年中向け、こどものとも（年長）、ちいさなかぐのとも、かがくのともと、自然やおはなしの月刊誌を1誌選び、各学年・クラスで年間購読して、読み語り（読み聞かせ）をする。他に園用として月刊誌をとり、職員室前の絵本棚に置き、子どもたちが好きな時に見られるようにする。図書室にある絵本、購入した絵本も季節や年齢に応じて読み語り（読み聞かせ）をする。紙芝居もクラスで活用する。  年間購読月刊誌
	（取組日） 令和7年 4月25日 ～ 令和8年 3月17日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること こどものとも社オンライン園内研修を教職員が受講。 ○「絵本を保育実践に活かす」講師 松本崇史で、講師の話を視聴し、こばと保育園の実践映像を見て、各クラスで絵本を活かした実践を行い、レポートを提出する。 絵本からリズム遊びや2月の発表会の劇遊びにつながった3歳児（『ピーマンマンとかぜひきキン』・5歳児（『きんのがちょう』、『かぐやひめ』）、ドットで表現された絵本から作品展の顔づくり発展させた4歳児、絵本から形あそび、形探しをする3歳児など、ごっこ遊びや観察などで保育実践に活かした。  講師 松本崇史 先生 （おおりの森こども園園長） 実践報告 こばと保育園 森下かおる 園長
	（取組日） 令和7年 6月 1日 ～ 令和8年 3月17日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること バーコード（リーダー）を使用する図書貸出システムを導入。園にある図書（絵本・図鑑）の整理とバーコード登録、シール貼りを7月から長期休みを利用し、始める。これまで通りの図書の貸出をしながら、パソコンへのバーコード・図書入力など準備をすすめる。バーコードを利用した貸し出しは3学期からとなった。図書整理・管理が進み、貸出もスムーズで子どもたちが絵本を借りやすく、いろいろな絵本に親しむことができた。いろいろな絵本が見つかり、保育に利用できた。今後も随時、図書入力をしながら活用していく。 
	（取組日） 令和7年 8月 1日 ～ 令和7年 8月25日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 鈴木楽器の「音あそびから学ぶワークショップ」をオンライン受講する。文字のない創作えほん2冊をテキストに、楽器や身近にあるものを使って効果音などを入れ、おはなしをつくり、絵本の読み語り（読み聞かせ）をする。紹介された実践例を参考に作成する。同じ話でも、つけた音により印象が異なること、より想像力が増し、理解が深まるなど、音が絵本に及ぼす影響を知ることができた。絵本の読み語り（読み聞かせ）に音表現を加える方法や効果を学ぶ。次年度、音を有効に活かすことができ、楽しめそうな絵本を選び、実践してみたい。 

3	取組概要	(取組日) 令和7年11月10日 ～ 令和8年 3月17日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 2学期の終わりに、絵本『どうぞのいす』の読み語り(読み聞かせ)を各クラスで行い、お話に親しむ。 3学期に「どうぞのいすぬいぐるみセット」を購入し、職員室前に絵本と一緒に展示する。子どもたちは興味を示し、ぬいぐるみを使って、お話を楽しむ。どうぞのいすを訪れる動物たちの順番と置いていったものを絵本を参考に忠実に再現し、友だちや年少児にお話を聞かせる5歳児もいた。どうぞのいすを訪れる動物の順番が違ったり、置いていくものが違っていても構わず遊んだり、新しい話をつくって遊ぶ姿も見られた。	
		(取組日) 令和8年 2月18日 ～ 令和8年 2月18日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 鈴木翼さんの絵本ライブを全園児対象にホールで行う。プロジェクターを使いスクリーンに絵本を投影し、ギター伴奏をしながらの読み語り(読み聞かせ)やうたあそびを体験する。『だいじょうぶ？ズッコ』で、うた遊びも楽しむ。『なんでやねん』などの絵本や『おばけマンション』をパネルシアターでも楽しむ。絵本にあわせ、歌ったり、踊ったり、ラップ調の読み語り(読み聞かせ)などの言葉のリズムや抑揚も楽しむ。コンサート後も保育や遊びの中で絵本やうた・リズム遊びを楽しんだ。	
		(取組日) 令和8年 2月26日 ～ 令和8年 2月26日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 童心社紙芝居アカデミーに参加し、童心社に依頼し、東京未来大学教授の佐々木由美子先生の「紙芝居研修会」を園で実施。絵本と紙芝居の違い、紙芝居の意義、実演方法などをうかがう。紙芝居舞台を使うための舞台スタンドを使って紙芝居が演じられた。おすすめの紙芝居も紹介された。同じお話でも絵本と紙芝居の絵や表現、読み方や印象が異なる点を確認し、それぞれの良さ、活用法を学んだ。紙芝居は大勢で見るために演出や絵が明確で、聞き手の共感性を高める特徴を持つことを学ぶ。今後は紙芝居も積極的に活用していきたい。	 画像は童心社紙芝居アカデミーのもの。 写真が講師の佐々木由美子先生。
		(取組日) 令和8年 2月27日 ～ 令和8年 2月27日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 劇団こぐま座の人形劇を観劇。おはなしを立体的に表現する人形劇と2次元的に表現する絵本のイメージの違いを体験する。2月6日の生活発表会では4歳児が『ピーマンマンとかげひききん』、5歳児が『かぐや姫』『金のがちょう』を絵本で親しんだ後で、劇遊びで立体的に表現した。振付や動きは、おはなしから子どもたちが想像・創造した。 人形劇観劇でおはなしのイメージが更に膨らんだ。 絵本が育てる心や劇遊び・劇表現によって広がる想像・創造力の育ちを実感した。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書(継続事業用)

施 設 名		明昭第二幼稚園				
教 育 理 念		○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかがわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。				

計 画 時	事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)								
			健康	人間関係	○	環境	○	言葉	◎	表現	○
	1 事業名		絵本の読み語り・絵本育を大切にする保育								
	2 事業概要		絵本の読み語りにより興味や関心を深め、子どもの言葉の豊かさ、想像力・表現力・心を育む。クラスでいろいろな絵本を読み語り、子どもたちの様子などを記録にとる。繰り返し読みの実践も行う。園児対象のおはなし会や観劇会などを通し、絵本のイメージ、読み語り体験を深めていく。令和7年度は絵本を保育実践に活かすことをテーマに研修会を実施し実践に活かす。絵本育の成果として5歳児が絵本づくりに挑戦する。								
	3 対象学級(クラス名) 対象人数		満3歳児、年少2学級、年中2学級、年長3学級、全8学級 (クラス名: つぼみ、たんぼぼ、ひまわり、もも、さくら、つき、ほし、やま)							176 名	
事業後	4 実施体制		取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・取組に必要な人員 保育者研修会外部講師、園児おはなし会、観劇会演者。 ・遂行に必要な技能やノウハウ等 月刊絵本を購読し、クラスごとに毎月、読み語りをする。かがくの絵本も月刊購読、購入し、自然観察や体験(実験)をする。 絵本(季節・行事・新刊・名作など)購入、蔵書と合わせ活用。繰り返し読みを実施する。子どもたちの様子、育ちの記録をとる。絵本を有効活用するために蔵書管理・図書システムを導入する。 絵本を表現遊びに広げるため打楽器など、絵本作りのための紙材などを用意する。 ・活動場所はクラスや2階ホールなど大型スクリーンや書画カメラを用い、大人数で楽しむ。								
	4についての効果・検証		事業実績から推測される効果や改善点等 ・実施に必要な人員は適正に配置・確保できた。オンラインでの「絵本を保育実践に活かす」研修会と実践例のレポート提出(ワークショップ)、「紙芝居研修会」は保育の視点と方法を提供し、有意義に活用できた。読み語りに必要な技能、ノウハウを学ぶことができた。・月刊誌は、「こどものとも」の年長、年少版、年中向き、ベストセレクションをクラスで購読。「かがやひめ」の劇遊びや保育活動に発展した。「かがくのとも」「ちいさいかがくのとも」「こどもとしぜん」「ワンダーしぜんランド」「ビッグサイエンス」は、自然観察(植物、昆虫、動物、天候など)に活用。興味・関心・探究心・観察力を高める。季節の絵本・新刊絵本も購入し、クラスで楽しむ。読み語りした(読み聞かせた)絵本で反応の良かったものを子どもたちの様子や育ちとともに記録にとる。蔵書管理・図書システムは夏休み・冬休みを利用し、蔵書を全て入力し、管理する。蔵書を把握し、選書・保育活用、貸し出しに有効に活かす。表現遊びに広げる打楽器の利用は研修会に参加したが、絵本づくりとともに活動が展開できなかった。時間の確保などが今後の課題・改善点である。								
計 画 時	5 事業のねらい		・絵本の読み語り体験を通して、ことは・想像力・表現力・豊かな心を育てる。 ・外部講師による研修やワークショップを通して、これまでの研修を活かし、令和7年度は集団での読み語り法・保育実践への活用例を学び、表現活動や造形活動につなげていく。 ・読み語りした絵本の記録(読書ノート)をとり、子どもたちの様子や育ちを把握する。 ・おはなし会や観劇を通し、絵本への興味・関心を高め、おはなしや絵本のイメージ(想像力)を深めていく。(いろいろなイメージがあることを知り、イメージを広げる。) ・図書室を利用した絵本貸し出しにより、家庭でも読み語り体験をすることで絵本育の効果を広めていく。(えほんだよりや展示をとおして絵本育の大切さも知らせしていく。) ・絵本環境を整え、科学えほんを通して幼児の興味・関心、探究心・観察力を育む。 ・令和7年度は図書管理システムを導入し、園にある蔵書(絵本)を有効的に活用する。(年齢発達に応じた絵本、季節の絵本、園児の興味・関心の把握や絵本の選書に役立てる。) ・令和7年度は5歳児で絵本づくりに挑戦し、絵本育の成果を形にする。								
	5についての効果・検証		事業実績から推測される効果や改善点等 ・クラスでの読み語りを通して、日常の保育の中で言葉・想像力・表現力・豊かな心を育んだ。特に印象に残った絵本は子どもの姿を記録に取った。読み語りした絵本は、3、5歳児の劇遊びや○や△などの形探し、4歳児の造形活動に発展した。・研修やワークショップ(保育実践例をレポートする。)により絵本を保育活動に発展させる意欲が高まり、活動が広がった。・おはなし会(絵本ライブ)、観劇会を通して絵本やおはなしのイメージを広げ、深めることができた。共感性も高まり、個々のイメージを伝えあうことができた。・年長の毎月のえほんだよりや職員室前の展示で家庭へも絵本育の大切さを伝えることができた。・月刊誌かがくのともを通し、身近な植物(たね)や昆虫(ダンゴムシなど)、天候に興味を持ち、観察・探究する姿が見られた。・図書システムの導入により蔵書の把握ができ、選書に有効活用できた。・5歳児の絵本づくりは時間・準備が整わずできなかった。お話づくりから本づくりへの発展・製本過程の検討が今後の課題・改善点である。								
事業後		5についての効果・検証									

計画時

6 取組の内容

計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等

・各クラスで保育者が園児に絵本を読み語りし、子どもたちの様子などを記録にとり、読み語りの効果を検証する。・職員研修やワークショップを活用し、集団での読み語りの効果や実践活動例などを学び、表現活動、劇遊びなど保育実践を行う。・月刊誌の購読や絵本購入を通して多くのおはなしの絵本・かがく絵本に親しめるように環境を整えるとともに、蔵書を有効活用できるよう図書システムを導入し、管理する。・おはなし会や観劇会を通し、担任以外の読み語りを体験し、観劇により絵本のイメージを深めたり、創造力を育む。5歳児は絵本づくりに挑戦する。・集団で読み語りを楽しめるように書画カメラを購入し、いろいろな絵本をスクリーンに映し、読み語りする。

上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点

・積み重ねー幼稚園教育要領の「言葉」を中心に育む体験として、保育の中で絵本の読み語りを実践したり、図書室を利用したの図書の貸し出しなどに取り組む。
・発展ー集団での読み語り研修での学びから子どもたちの体験共有が「人間関係」・「環境」の人や事物とのかかわり、コミュニケーションを、かがくの絵本も読み語りすることにより環境にかかわる内容も保育に取り入れることができた。「表現」についても音遊び・劇遊びに発展させることで表現力が高まり、協同性も育まれる。絵本作りにより想像力も高まる事が期待される。月刊絵本の購読や絵本コーナーの設置により絵本が子どもたち、保育者にとっても身近にある環境づくりをする。・読み語りを有効なものとするために蔵書・図書管理システムを活用する。

(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点

・読み語りだけではなく、絵本の活用、保育活動への発展に重点を置く。(研修会、ワークショップで学び、表現活動などの保育実践を行う。)
・絵本環境の充実と園蔵書の有効活用をする。月刊えほんや新刊絵本、名作絵本を購入。かがく絵本により探究心、観察力、考える力も育んでいく。図書システムの導入により、蔵書を整理(管理)し、年齢発達・時期・一人ひとりにあった絵本を提供する。集団での読み語りに子どもたちが多く親しめるように機器(書画カメラ、電子ボード)を使用する。
・絵本づくりに5歳児が挑戦し、これまでの絵本体験(絵本育)の効果を見る。

事業後

6についての効果・検証

事業実績から推測される効果や改善点等

・研修会や月刊誌、絵本の読み聞かせは、5歳児の「かがやひめ」「きんのがちょう」の劇遊びに発展し、全園児への絵本『だいじょうぶ、ズッコ！』の読み聞かせと絵本ライブは手遊びやリズム遊びに広がった。みんなで表現する楽しさは、表現力や共感力、つながる力を育んだ。
・絵本環境の充実はクラスで絵本を活用する中で、子どもたちの観察する力・探究心、ことばへの興味・関心を深め、語彙力を育んだ。図書システムの導入は一人ひとりにあった絵本の選書に活かされ、図書の貸し出しもスムーズとなり、子どもたちが多くの絵本に親しむことができた。・書画カメラや電子ボードは購入できず、日常保育に活かせなかったが絵本ライブや観劇会で集団での読み語りやおはなしを楽しむ体験ができた。・5歳児の絵本づくりの実践が今後の課題である。

計画時

7 環境構成例

・絵本の読み語りをする各クラスの保育者、おはなし会、人形劇演者。(担任以外の読み語りを聞く、絵本の読み語りの後に人形劇観劇によりイメージを深める。)
・外部講師から絵本の活用を聞く、ワークショップに参加し、楽器を使った表現遊びなどの保育実践を行う。(鍵盤ハーモニカ、カスタネット、トライアングル等を使用)
・読み語りに使用する月刊絵本、かがく絵本を年齢ごとに毎月購入、その他必要に応じ、絵本を購入する。(季節の絵本、講師紹介絵本など)
・集団での読み聞かせに書画カメラと電子ボードを使用。ホール以外のエントランスや空きスペースを利用し、全園児、学年、クラス、小集団での読み語りに利用。
・園蔵書、絵本を図書管理システムで整理・管理し、読み語りに有効利用する。
・読書ノート、パソコンを利用し、子どもたちの様子など読み語り記録をとる。
・5歳児絵本づくりに必要な紙材と印刷代。(ソフトカバーの絵本にする。)
・絵本紹介掲示物。(興味・関心を持てる絵本関連グッズや観劇用品)
・絵本参考図書、紙芝居、パネルシアターなど。

事業後

7についての効果・検証

事業実績から推測される効果や改善点等

・クラスでの読み語り、おはなし会(絵本ライブ)、観劇会など充実した絵本環境が出来、イメージが膨らみ、手遊び、表現遊び、劇遊びにつながる。言葉・情緒、表現力・共感力・協同性が培われた。
・研修会、ワークショップを通して、絵本を保育に有効活用出来た。楽器表現への活用は研修会に参加したが、活用することが出来なかった。次年度以降の課題としたい。・月刊絵本、購入図書を活用し、季節を感じ、興味・関心を広げる。表現・造形遊びに役立てた。・書画カメラ、電子ボードは購入できず、活用ができなかった。小集団や全園児が体験できるよう絵本ライブや人形劇、紙芝居を活用した。今後、活用を検討していきたい。・図書管理システムは夏・冬休みに蔵書の入力を終え、選書や保育での活用、図書貸出に利用できた。読書ノート、パソコンで、印象深い絵本、効果が見られた絵本の読み語り記録をとる。・5歳児の絵本づくりは時間や材料準備・製本方法の問題で出来なかった。今後の課題である。・年長絵本だよりなどの絵本紹介や職員室前展示は子どもたち・保護者の興味や関心を高め、表現遊びに発展し、豊かな心が育った。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・絵本を通して、いろいろな事物や事柄に興味や関心を持つようになる。かがく絵本を通し、好奇心・探究心・観察、実験して確かめるなど科学する心が育まれ考える力が育つ。 ・絵本の中に入り込み、登場人物や動物になりきること、いろいろな立場を経験し、共感したり、(相手の立場になって)相手のことを思ったりなどして、豊かな心が育まれる。 ・読み語り体験により豊かな言葉を聞き、言葉が育つ。話を聞く姿勢が形成される。 ・絵本をきっかけに体を動かしたり、言葉のニュアンスを楽しんだり、絵本に音をつけて遊ぶなどして表現遊び、劇遊びなどを楽しむ。 ・クラスや様々な集団での読み語り体験を共有することで、園児同士のコミュニケーションが深まり、共感性が高まる。(いろいろな場所で集団での読み語りを体験する。) ・繰り返し読みで繰り返し絵本を読み、話を聞くことで、発見(気づき)があったり、おはなしの理解が深まったりする。 ・絵本づくりにより、想像・想像力が育まれ、言葉や心の育ちなどが見られる。
	事業後	8についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・色や形の絵本を通して、いろいろな形探しをしたり、かがく絵本を通して、タンポポの根っこやダンゴムシの生態、雲などに興味・関心を持ち、観察したり確かめたり、科学する心、考える力が育まれた。 ・絵本のお話の世界に入り込み、登場人物になりきったりして、相手を思うやさしさや豊かな心が育まれた。 ・豊かな言葉とともに、集中して話を聞く姿勢が育まれた。 ・絵本『だいじょうぶ ズコッ!』では手遊びや言葉のニュアンスを楽しみ、ラップ調の絵本では音と言葉の響きを楽しみ、『かぐやひめ』『きんのがちょう』は劇遊びに発展し、絵本をきっかけに活動が広がった。 ・クラスでの読み語り、全園児対象の絵本ライブ、観劇会で一緒に楽しみ、共通体験することにより、つながりやコミュニケーションが深まり、共感性が高まる。感想や意見を言いあう姿も見られた。 ・子どもたちの要望により繰り返し読んだ絵本は、読むごとに子どもたちの理解が増し、絵の細かな部分に気づいたり、発見があった。 ・絵本づくりはできなかった。お話づくりから絵本づくりに広げる活動を今後して行きたい。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 4月に「絵本を保育実践に活かす」オンライン研修会と実践報告ワークショップを受講したことで絵本を読み語りするだけでなく、保育に活用する機会が多く持て、子どもたちの表現力、感性がより育まれた。月刊誌や絵本を有効に活用できた。お話を楽しむ姿勢、聞く姿勢も育まれ、コミュニケーション力、共感性も培われた。書画カメラ、パソコンなど電子機器を使って絵本を見ることはできなかったが、絵本ライブや観劇、紙芝居の活用を通して大勢で絵本やおはなしの世界を楽しむことができた。科学絵本からアゲハチョウの生育、お米栽培・おにぎりづくりのきっかけが生まれ、身近なくだもの(バナナ・みかん)やタンポポやダンゴムシの不思議など興味・関心、探究心、観察力などが育成された。おはなしの絵本は想像力が広がり、「かぐやひめ」「きんのがちょう」は自ら演ずる劇遊びとして振付を考えたり、協力して、おはなしの世界を表現することが出来た。5歳児のえほんだよりや職員室前の「どうぞのいす」の展示は子どもたちの興味や関心を広げ、年長児と年少児の交流を生み、思いやりとやさしい心を育んでいった。どうぞのいすのぬいぐるみを使ってお話を再現したり、新しいお話をつくる遊びも広がった。今後も絵本の読み語りや諸活動を通し、子どもたちの情緒・想像力・豊かな心・表現力を育み、共感性を育む紙芝居、観察力・探究心を育む科学絵本の活用、絵本づくりを目指していきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。